

中国：金融政策

MRI Daily Economic Points
August 27, 2015

政策金利と預金準備率



資料：CEIC、Bloomberg

上海総合指数



評価ポイント

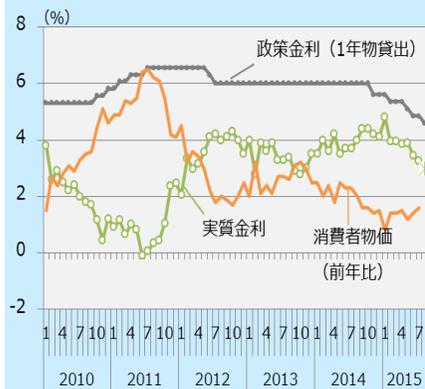
今回の結果

- 中国人民銀行は、8月25日、株式市場の取引終了後に追加利下げを発表。同銀行は「中国経済は、下振れ圧力を受けており(中略)、世界の金融市場が大きく変動する中、金融政策手段を一段と柔軟に活用する必要がある」との認識を示した。
- 利下げは14年11月以来5回目となる。26日以降、一年物貸出金利および一年物預金金利を0.25%引き下げ、それぞれ4.6%、1.75%としたほか、その他の年限の貸出および預金金利も同様に0.25%引き下げた。同時に預金準備率の0.5%の引き下げも決定。9月6日以降、大手金融機関などの預金準備率を18.0%とする。
- 金融市場では、中国の景気減速懸念が世界の株安を引き起こす状況が続いている。中国国内の経済指標をみると、6月に底入れの兆しが伺われていた生産・小売が7月に再度悪化。景気の動きを敏感に反映する電力生産や鉄道貨物なども悪化傾向が続いている。景気減速懸念が強まる中、政府の株価対策を受け小康状態を維持してきた上海総合指数は、8月下旬以降、再び急落。8月25日には3000ポイントを割り込む結果となった。今回の利下げは、景気下支えに加え、金融市場の混乱が続く中、市場のセンチメント悪化への歯止めを狙った措置と考える。
- もっとも、低インフレ傾向が続く中、企業の借入りに影響を及ぼす実質金利(政策金利-消費者物価の伸び)の水準は依然として高く、景気への影響は限定的であろう。

今後の見通し

- 25日夜に発表された中国の利下げ決定を踏まえ、同日の欧州の株価は持ち直した。
- しかし、26日の上海総合指数は一時やや持ち直し傾向を示したものの、終値では前日割れとなった。また、利下げ決定を受けて人民元(対米ドル)レートは下落しており、中国からの資金流出が加速する恐れもある。
- 先行きを展望すると、過剰投資や地方財政悪化など構造問題に加え、株価下落の消費への影響や、天津爆発事故による物流停滞などによる下押し圧力を背景に、中国経済の成長鈍化傾向は続くと思われ、15年は6%後半の成長率を予測する。ただし、今後数ヶ月にわたり、金融市場の混乱が続く場合には、中国経済の急失速の可能性もあり、当面注視が必要であろう。

実質金利

注：実質金利は、政策金利-消費者物価で計算(8月の消費者物価は未発表のため7月と同値で仮計算)。
資料：CEIC、Bloomberg

生産、電力、鉄道貨物

